学力向上フロンティアスクール中間報告書

都道府県番号	４４
都道府県名	大分県

【　①■　②□　③□　】

Ⅰ　学校名及び規模

学校名	竹田市立南部小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	１	１	２	２	２	１	１	１０	１３
児童数	４０	３２	５１	５３	４７	４０	（２）	２６３	

Ⅱ　研究の概要

（１）　研究主題

一人ひとりに確かな学力をつける指導のあり方
～国語・算数科を中心に、個に応じた学習指導の工夫改善を通して～

（２）　研究主題設定の趣旨

①現代社会における教育的課題から
「生きる力」の基盤となる確かな学力の定着が学校教育に求められている。確かな学力をはぐくむためには、「関心・意欲・態度」「思考力・判断力・表現力」「知識・理解、技能」などの資質や能力、とりわけ子どもの自己実現に生きて働く自ら学び自ら考える力をその中核としてとらえて、個に応じたきめ細かな学習指導の工夫改善を図る必要がある。
②学校教育目標の具現化に向けて
本校の学校教育目標は、「知・徳・体の調和がとれ、心豊かで平和を愛し、何事にもすすんで挑戦する『生きる力』に満ちた南部小の子どもに育てる」である。また、めざす子ども像として「よく考え、すすんで学ぶ子ども」を掲げている。これは、先に述べた自ら学び自ら考える力をはぐくむことと一体のものであると考える。
③子どもの実態、研究の歩みから
これまでの研究成果として、自ら学んだことを発信するために創意工夫をこらした発表の仕方を考えたり、自尊感情の高まりから自分のおもいを相手に伝えようとする意欲や態度が見られるようになってきている。反面、なれ合い的な面や指示待ちの傾向が強く、自ら考え行動することをためらう子どもも少なくない。こうした傾向は学習面でも見られ、自分なりの考えを持とうとする学習活動で思考が止まったり、「読み・書き・計算」の基礎的な学力の定着が十分ではなく繰り返し指導を要する子どももいる。一人ひとりに確かな学力をつけるために、個に応じた学習指導の工夫改善が不可欠である。
以上のような理由から本主題を設定した。

Ⅲ　研究の概要

（１）　研究推進体制の工夫
低・中・高学年部会では、授業研究をそれぞれ進める。また、「チャレンジタイム等の運用事例」「学力実態調査」「ＴＴ、少人数指導実践事例」の研究テーマをそれぞれに与え、テーマ別研究を推進してきた。

（２）　研究の実際

①研究仮説

一人ひとりのおもいや考えを生かし、個に応じた多様な学習形態や学習過程を工夫すれば、確かな学力を身につけた子どもが育つであろう。

②研究の内容・方法
上記研究主題及び研究仮説の検証のために、本年度の研究の重点として次の２点を設定し研究を進めてきた。

（ａ）学習システムを活用した指導体制、指導方法についての研究

ＴＴ指導、少人数指導等の学習形態について、『学習システムの活用～個に応じた多様な学習形態』として分類整理した。授業研究では、主に単元の学習内容、学習活動、学習課題、理解や習熟の程度に応じて学習集団を効果的に構成し、個に応じたきめ細かな指導をするための教材開発等を中心に研究してきた。

学習システムの概要	○１年生→国語、算数での少人数指導 ・入門期の学習で個人差が生じやすいので、一人ひとりの児童へのきめ細かな支援を行うため ○４～６年生→算数 ・児童の理解に差が生じやすい学年なので、基礎・基本の確かな定着を図るため ○３～６年生→理科 ・専科教員と担任とのＴＴ指導によって、課題の把握や解決へ向けて個に応じた支援を行うため ○５～６年生→音楽、図工、家庭科での交換授業（教科担任制） ・３学級担任が得意分野の教科で専門性を生かした指導を行うため ○全学年→ブックスタイム、チャレンジタイム（国語、算数） ・朝の読書活動やスキル中心の繰り返し学習によって、日常的な指導を行うため
授業研究の事例	○１年算数「くり上がりのあるたしざん」 ・単元の学習計画を３つのステップに分け、それぞれのステツプ終了時に診断テストを行い、理解や習熟の程度に応じたコース選択と理解を促進する教材の提示に取り組む。 ○４年算数「三角形」 ・ＴＴ指導とコース選択学習を組み合わせて、課題別コースで学習した補充的な学習・発展的な学習を進める教材の開発に取り組む。 ○５年算数「小数のかけ算」 ・ＴＴ指導を中心に、個が自力解決を進め、考えを交流し相互解決できる問題やワークシートの工夫に取り組む。

（ｂ）算数科で、確かな学力の定着を図る学習過程のあり方についての研究

『個を生かす算数科の学習過程（南部小プラン）』を構想し、それをもとに授業研究に取り組んできた。この南部小プランは次の５つの構想をもとに構成した。

①基礎・基本の定着
②４０分授業に対応した学習展開
③〈つかむ〉→〈考える〉→〈ふかめる〉→〈まとめる〉の４段階の学習展開
④それぞれの学習過程で子どもにつけたい算数の力
⑤それぞれの学習過程で個を生かすための手立ての工夫

（３）　研究の成果と課題

【研究の成果】

①子どもたちの学習意欲を高め、理解を深める

昨年 11 月に実施した『学習に関する意識調査』（３～６年対象）の結果から、「勉強の内容がよくわかる」の設問に対して「よくあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童は、少人数指導に関しては９１％、ＴＴ指導に関しては８８％であった。この結果からも、多くの子どもが理解を深めることができたと感じていることが分かる。ＴＴ指導や少人数指導を取り入れた授業研究を行い、日常実践に生かしていくことによって、子どもたちの学習意欲を高め、理解を深めることができた。

②基礎・基本の確実な定着を図る

基礎・基本の確実な定着のために、毎時間の導入段階で小テストを行い、理解が十分でない子どもにはその都度個別指導をしていくようにした。また、終末段階では類似問題を解く時間を確保するようにした。そのため、時間内に前時の復習をし、本時の定着を図れるようにしたことで、より確かな学力を身につけさせることができた。

【コースにわかれて少ない人数でおこなう学習】〈勉強の内容がよくわかる〉　（%）

	学 年 （人数）	よくあてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	まったく あてはまらない	合 計
少人数指導	３ 年 （４９人）	－	－	－	－	－
	４ 年 （５０人）	２８	６２	１０	０	１００
	５ 年 （４５人）	５６	４２	２	０	１００
	６ 年 （３８人）	２１	６３	１６	０	１００
	合 計（１８２人）	３５	５６	９	０	１００

【二人以上の先生が教える授業（ＴＴ）】〈勉強の内容がよくわかる〉　（%）

	学 年 （人数）	よくあてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	まったく あてはまらない	合 計
ＴＴ指導	３ 年 （４９人）	４５	３７	１６	２	１００
	４ 年 （５０人）	７２	２０	８	０	１００
	５ 年 （４５人）	５１	４０	７	２	１００
	６ 年 （３８人）	３２	５５	１３	０	１００
	合 計（１８２人）	５１	３７	１１	１	１００

③「子どもが何を学んだのか」という視点からねらいや意図が明確な授業を展開
　評価規準・評価基準を設定し評価の観点を明確にすることによって、これまで「何を教えるのか」という教える立場の教師の意図が優先されて、子どもが「何を学んだのか」という点から授業を考える視点が弱かったが、子どもの立場から授業を組み立てたり見直したりすることができるようになった。

【今後の課題】
①ＴＴ指導における T1T2 の役割分担やスキルの向上、単元学習での少人数指導の効果的な構成
②４０分授業で学習のねらいに到達するための学習活動の効率化と学習過程の改善
③学習過程の〈考える〉〈ふかめる〉段階で「学ぶ力（思考力・判断力・表現力）」を育てるための学習活動や手立ての工夫
④自己評価、相互評価を取り入れた「ふりかえりカード」、座席表・個人カルテの活用、観点別評価一覧表の作成等、学習評価のための具体的な手だての導入

（４）　研究成果の普及の方策
①学力向上フロンティア事業報告会の開催
　開催日　　平成１６年２月４日（水）
　場　所　　本校
　対　象　　竹田教育事務所、竹田市教育委員会、管内フロンティアスクール各校
　　近隣の小中学校

②学校間連携推進地域連絡会において研究成果の発表
　開催日　　平成１６年２月１２日（木）
　場　所　　緒方町中央公民館
　対　象　　竹田教育事務所管内の各小中学校校長

◇次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること（複数チェック可）

【新規校・継続校】　■１５年度からの新規校　□１４年度からの継続校
【学校規模】　□　６学級以下　■　７～１２学級　□１３～１８学級　□１９～２４学級　□２５学級以上
【指導体制】　■少人数指導　■Ｔ．Ｔによる指導　■一部教科担任制　□その他
【研究教科】　■国語　□社会　■算数　■理科　□生活　■音楽　■図画工作　■家庭　□体育　□その他
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　㊒　無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】
・「個を生かす学習過程（南部小プラン）」の〈つかむ〉→〈考える〉→〈ふかめる〉→〈まとめる〉の４過程で、〈考える〉〈ふかめる〉過程を一体的に捉え、操作活動やゲーム等を取り入れ、児童に試行錯誤させることを通して「分かる授業」を目指す。